

国の根幹を 変質せしめる 皇室典範改悪を許してはならない

皇族の意向も、国民的良識の批判も無視する小泉首相の「皇室世俗化」シナリオ

事の重大性を認識せぬ小泉首相
私的な諮問機関が一年足らずで、不敬な女系「容認」

十一月二十四日に提出された「皇室典範に関する有識者会議」の報告書は、わが国の秩序崩壊を意図する革命的内容と言わざるを得ません。

それはこのたびの報告書が、わが国柄としての永きにわたる伝統を否定する、革命的ともいふべき性格だからです。わが国の最も大事な伝統の根幹は、天皇霊の正当なる継承が綿々と保たれてきたことにほかなりません。

「民」が決めて良いこと、悪いこと

皇位の男子継承の所以は、必ずしも判然としていないのは確かです。しかしながらこの男子継承が不文律の国法として、不断に守られてきた事実を深く認識する必要があります。この理由をいくら詮索しても、それは単なる理屈にか過ぎないでしょう。大事なことは「守られてきたこと（伝統）は、後世においても正確に守る」という態度ではないでしょうか。

今年の流行語となった「小泉劇場」は「民に出来ることは民に」をモットーにしているようですが、それは皇室の尊厳をも民間に貶めるつもりなのでしょうか。『週刊新潮』は『女帝容認』なら『ホリエマンの子供』も天皇になれる？との、極めてセンセーショナルな見出しを掲げていましたが、これは決して大げさな笑い話ではすまされないことです。

その戦慄すべき現実性は、報告書の中で「女子が皇位継承資格を有することとした場合には、婚姻後も、皇位継承資格者として皇族の身分にとどまり、その配偶者や子孫も皇族となることとする必要がある」としたところに明瞭に現われています。

聖と俗をわきまえた論議を

これはまさにわが国伝統の秩序体制を破壊させる、革命的陰謀であると断言できます。今日の社会的な様々な問題は、全てこうした秩序体系を軽んずる風潮がもたらした結果と言えましょう。そもそも皇位継承という重大事を、現代の世俗政治的レベルで短期間に解決しようとするのは暴挙でしかありません。

皇位継承はわが国において最も重要なことです。これは歴史と伝統とを十分にわきまえて考察されるべきです。

次期通常国会で

決して成立させてはならない！

わが国の国柄の根本をなす皇位継承の問題については、現状のような軽々たる議論ではなく、歴史と伝統に基づいた秩序体系を保持するための方策を思考すべきです。このたびの「有識者（？）会議」報告書にそって次期通常国会での改変を図ろうとする小泉首相の軽薄きわまりない政治姿勢は、わが国の歴史と伝統に対する悪意あるたくらみとしか言いようがありません。

新風は、国の歴史と伝統へ誠実な姿勢を求める政党です

維新政党・新風本部

ホームページ <http://www.shimpu.jpn.org/>
〒604-0912 京都市中京区二条通河原町東入
京都書店会館2F
TEL.075-256-1545 FAX.075-241-2193
〒104-0045 東京都中央区築地7-6-7
松田ビル301号
TEL.03-5565-2993 FAX.03-6226-3528